



すべては未来のために 吉村かずや後援会

このまちに育ててもらった感謝を、未来への力に。

- ✓地域のつながりを深化させ「孤立のない社会を作る」
- ✓「心と身体を育む」まちづくりの実現
- ✓「行財政の抜本的見直し」と「産業の発展」

✓「心と身体を育む」まちづくりの実現

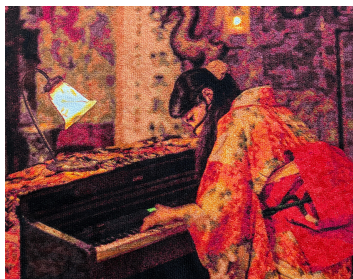
Pickup! 岐阜市三輪地域の喫茶店でアート展 「MIWA ART AND COFFEE WALK」開催

岐阜市には、
何気ない日常の中で人が集い、会話が生まれ、
心がほどけていく——そんな喫茶店文化があります。
この“日常の居場所”にアートを重ねることで、
構えずに、気負わずに、「ふらっと立ち寄った先で、心が
動く体験」が生まれるのではないかと。そう考え、
【MIWA ART AND COFFEE WALK】を企画しました。
本イベントは、2025年12月1日～12月28日まで、
三輪地域の二つの喫茶店、
「喫茶ZUCCO」「PEEK.A.BOO」を会場に開催しました。
こだわりの珈琲とともに、岐阜ゆかりの作家による作品を
気軽に楽しむ。そして、喫茶店でのひとときが、地域の歴史
や文化に出会う小さな旅の始まりになる。そんな流れを生み
出すことも、この取り組みの大切な目的です。
お客様からは、「いつもの喫茶店なのに、まるで別の場所
に来たような感覚になった」「心が動き、お腹も満たされる
時間だった」といった声も寄せていただき、
この活動の意義をあらためて感じる機会となりました。



喫茶ZUCCO展示風景

- ・手前2作品:曾良貞義作品 (刺繍で美濃市和紙あかりアート展
- ・奥:ART FIELD在籍作家作品 (一コマを表現)



岐阜市在住 鈴木順智作品

展示作品の詳細はQRコードから、ご覧いただけます →

今後も「喫茶店×アート展」開催に挑戦します!



皆さまのご意見をお聞かせください。

いただいたご意見を参考にし、社会に役立つ取り組みへと活かしていきます。

～「市政情報」～

郊外団地・交通空白地域こそ検証の場
——自動運転バス予算をどう活かすか



年間予算

約1億4,000万～1億5,000万円

自動運転バスの車両リース代は、1台あたり約90万円/月。3台（うち予備車1台）を含め、2023～2027年度の5年間で約7億2,200万円、年あたりでは約1億4,000万～1億5,000万円規模の予算が想定されています。実証実験は大切ですが、大規模な予算が郊外団地や交通空白地域にどれだけ寄与しているのか、慎重に見極める必要があります。交通課題が深刻な郊外地域こそ検証の場とすべきではないでしょうか。本当に困っている地域の課題解決につながるかという視点での検証が大切だと考えます。

吉村かずやプロフィール



岐阜市福富天神前

1986年3月生 39歳

【経歴】

三輪中学校 卒

岐阜三田高等学校 卒

(現:岐阜城北高等学校)

中日本航空専門学校卒

放送大学教養学部 卒

【職歴】

川崎重工2006-2022

三輪南農産入社2023-

【地域活動】

令和5年度、6年度 三輪中学校PTA会長

陸上部活動外部指導者

日本陸連ジュニアコーチ修了

みわスポーツクラブ理事

三輪南体育振興会理事

三輪・藍川献血クラブ幹事

三輪南まちづくり協議会所属

三輪水防団所属

愛友会会員 (福富団地祭りの会)

長良川球友会所属 (草野球チーム)

令和5年度、6年度 少年地域補導委員

岐阜市まちなか博士初級取得

C級プログラミングリーダー取得(ゴミ拾いリーダー)

ホームページ



Instagram



Facebook

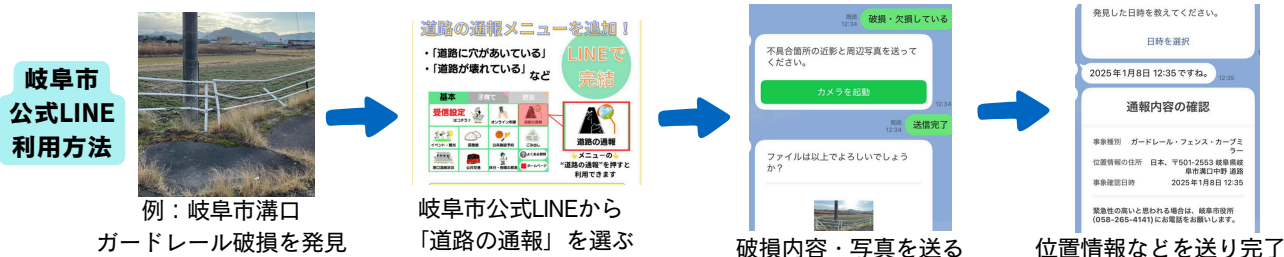


発行元 すべては未来のために 吉村和也後援会事務所
〒501-2566 岐阜市福富天神前369番地

すべては未来のために **アクション!** 吉村かずや後援会

Pickup! 岐阜市公式LINE「道路の通報」 | 市民参加で守る安全

岐阜市では、道路の穴やひび割れ、ガードレールの破損などを、LINEで簡単に通報できる仕組みがあります。写真と位置情報等を市へ時間を気にせず直接伝えられるため、事故を未然に防ぐ「予防」の取り組みとして、とても有効だと感じています。このような市民参加型の仕組みは、行政だけでは気づきにくい小さな異変を補い、まちの安全性を高めてくれます。



——仕組みを変えることで『市民・行政・まちの三方よし』の関係が生まれます。

そこで「現行は電話連絡のみの『動物の死骸通報』を、公式LINEでもできるように、『市長への手紙』で提案しました。」

【提案内容/岐阜市の回答】

道路上の動物の死骸についても同様に通報できる仕組みがあれば、二次事故の防止や市民の不安軽減につながると考え、2025年12月6日「市長への手紙」として提案を行いました。市からは、閉庁日を含め、電話で毎日受付し迅速に対応する体制を取っていること、またLINE通報は位置や画像の把握に有効な一方で、至急対応には課題があるとの回答がありました。『却下』で終わらせないために。今回の回答を次の検討段階と受け止め、却下にとどまらず、現場の声を集めながら次の提案につなげていきます。

吉村かずや後援会ツアー“岐阜提灯とは何か”を感じてもらう

Action! 「和紙でつくる、光のステンドグラス体験会」を企画

大好きな地元の良さを再発見するため、岐阜市春近の工房「紙のわざ」にて和紙貼り付け体験会を開催します。

作り手のそばで手を動かし、話を聞きながら、提灯と和紙が育んできた岐阜らしさの価値を、現場で感じていただけたら嬉しいです。

【ツアーご案内】

内容：制作、ギャラリー見学、職人による制作背景・和紙のお話

※制作した作品はお持ち帰りいただけます

日時：2026年2月15日（日）13:00～15:00（2時間）

料金：1,000円（現金のみ）

対象：小学生以上／定員最大10名（先着順）※2月5日締切

住所：岐阜市春近古市場南78・工房「紙のわざ」（駐車場あります）

【工房・職人について】

1949年設立の（株）林工芸は、事業を次世代に継承し、岐阜市春近の工房「紙のわざ」で職人として和紙と向き合い、「これこそが岐阜提灯だ」と、誰もが胸を張って思い浮かべられる郷土品を目指し、今もなお挑み続けています。



～和紙によるステンドグラス～

一緒に岐阜を感じませんか^_^

QRコードより、
お申し込みお待ちしております

